

2017
CURRICULUM

経済学部

社会経済学科 現代経済学科

大東文化大学

●社会経済学科のカリキュラム

卒業必修単位: 124単位

	1年次	2年次	3年次	4年次	単位
基礎	必修 基礎演習 アクティブ・リーディングA コミュニケーション・イングリッシュA プロジェクト・イングリッシュA 中国語 I AB 入門数理	アクティブ・リーディングB コミュニケーション・イングリッシュB プロジェクト・イングリッシュB 中国語 II AB	アクティブ・リーディングC プロジェクト・イングリッシュC 中国語 III AB		8
	選択				8
	自由 仏・独・中国語初級1A1B, 2A2B 外国語特殊講座AB 外国語特別演習A~H 海外研修A~D	仏・独・中国語中級1A1B, 2A2B	仏・独・中国語上級1A1B, 2A2B 外国語特殊講座AB 外国語特別演習A~H 海外研修A~D		A
専門	必修 経済学の基礎AB	ミクロ経済学 I マクロ経済学 I			8
	I 群 経済データ分析入門	I 群 経済史総論AB 経済・社会思想AB (現代社会論AB) (社会経済思想AB) 経済データ分析AB ミクロ経済学 II マクロ経済学 II	専門演習 I チュートリアルA~D 一般演習		12
	II 群 現代日本経済 現代世界経済	II 群 金融AB 財政AB 国際経済AB			36
	自由 経済学特殊講義AB (ゲーム理論入門AB)	経済政策AB 開発経済論AB 応用数理AB (経済の数理AB) 民法AB 商法AB 集中セミナーAB	経済史A~D (日本経済史AB) (西洋経済史AB) (国際経済史AB) 経済・社会思想C~F (社会経済思想CD) (近代経済学史AB) (経済倫理学AB) 地域経済・社会論A~D (アメリカ経済・社会論AB) (中国経済・社会論AB) 経済地理AB 国際経済CD (グローバル経済論AB) (国際金融AB) 社会保障AB 公共経済学AB	専門演習 II 一般演習	12
			卒業研究		12
					74
					B
全学共通	科目内容については、大学案内冊子をご覧ください(自由科目)。				12+C
				各教育科目の自由科目合計(A+B+C)	52

※所定の単位数を超えて修得した「選択科目」の単位は「自由科目」の単位に算入されます。
※現代経済学科の「必修科目」「選択科目」を「自由科目」として修得することが可能です。

※外国人留学生は、日本語科目等4単位も必修です。
※開講時、若干変動する場合があります。

Pick Up (科目紹介)

プロジェクト・イングリッシュA

【社会経済学科・基礎選択科目】
この科目では、自分の意見を「英語」で発信する力をつけることをめざします。特定のテーマについて、英語の資料を使って情報を集め、自分の考えを正確な英文にまとめ、それを口頭で適切に表現できるように練習します。英語を学びながら、大学生として必要なアカデミック・スキル(調べ、読み、考え、表現する力)も自然に身につけていきます。

財政AB

【両学科共通・専門選択科目】
人口減少やグローバル化が進むなかで私たちの暮らしは大きく変化しています。第二次大戦後、社会や経済の発展を支えてきた制度や仕組みを見直し、時代の流れにあったものに組み変える兆しも見え始めています。国や地方自治体、市民はこの変化にどう対応すべきか、政府の支出や資金繰りのしくみを学びながら考えていきます。

経済史総論AB

【社会経済学科・専門選択科目】
経済史とは、私たちがいま暮らしている経済社会がどのように形成されてきたのか、人間の経済生活の歴史的発展について考えていく学問です。さまざまな地域・時代についての分析が可能ですが、この科目では比較的長期の視点から経済史の考え方・分析手法を学びます。現代を知るうえで、歴史に溯って考えることがいかに有用に分かる科目です。

グローバル経済論AB

【両学科共通・専門選択科目】
この科目では、外国とのヒト・モノ・サービス・資金の移動や取引について、歴史面・制度面を中心に学んでいきます。前期では国際貿易、後期では国際金融を中心に取り上げ、グローバル化する世界における貿易・通貨・金融システムの今後を展望していきます。また、外務省から特別講師を招いて行う「外交講座」も授業の一部に取り入れています。

中国語IA・IB

【社会経済学科・基礎選択科目】
社会経済学科1年次の選択科目で、文法中心の「中国語IA」と会話中心の「中国語IB」を同時に履修します。1週間にこの2つの科目を受けながら、基本的な発音と文型を学び、それら文型を使って自己PRができるようにすることを目的としています。例年、12月上旬にこの自己PRの原稿を用いた朗読コンテストも行っています。

社会保障AB

【社会経済学科・専門選択科目】
この科目は、家族・社会経済の変化と関連づけながら、社会保障の役割と意義を理解することを目的としています。具体的には、社会経済の実態をさまざまな統計・調査から把握しつつ、年金・医療・介護・子育て支援など、各種施策の変遷を学んでいきます。少子高齢時代における社会保障制度のあり方について考える、よい機会となるはずです。

経済学史AB

【両学科共通・専門自由科目】
この科目は、1・2年次に経済学の基本を習得した3年生を対象として、経済学の歴史をその起源から20世紀後半まで概説するものです。経済学の歴史は、過去数世紀ほどの西欧近代資本主義の進展と密接に関わっており、資本主義の歩みと同様、複雑な道をたどりました。学説史を振り返ることは、経済学の現状に反省を加える拠り所ともなるでしょう。

キャリア特別講座(日本の企業社会AB)

【両学科共通・専門自由科目】
この科目では、日本を代表する企業の社員を特別講師として招き、毎回交代で講義してもらいます。内容は、企業の経営理念や経営戦略、社会的責任(CSR)、顧客満足度(CS)の向上など、さまざまです。講師は、最新のビジネス情報を交えながら実体験を語ってくれることが多く、通常の授業では得られない知識や情報に触れることができます。

●現代経済学科のカリキュラム

卒業必修単位124単位

		1年次	2年次	3年次	4年次	単位	
基礎	必修	基礎演習 アクティブ・リーディングA 入門数理	アクティブ・リーディングB			10	
	自由	コミュニケーション・イングリッシュA プロジェクト・イングリッシュA 中国語ⅠAB 仏・独語初級1A1B, 2A2B 外国語特殊講座AB 外国語特別演習A～H 海外研修A～D	コミュニケーション・イングリッシュB プロジェクト・イングリッシュB 中国語ⅡAB 仏・独語中級1A1B, 2A2B	アクティブ・リーディングC プロジェクト・イングリッシュC 中国語ⅢAB 仏・独語上級1A1B, 2A2B 外国語特殊講座AB 外国語特別演習A～H 海外研修A～D		A	
専門	必修	経済学の基礎AB 経済データ分析入門	ミクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅰ			8	
	選択	I群 経済数学 現代経済史	ミクロ経済学Ⅱ マクロ経済学Ⅱ 経済データ分析AB 経済会計原理AB (社会会計AB) (企業会計AB)	専門演習Ⅰ チュートリアルA～D 一般演習	理論経済学A～D (中級ミクロ経済学AB) (中級マクロ経済学AB) 計量経済学AB 財務諸表分析AB	卒業研究 一般演習	12
		II群 現代日本経済 現代世界経済	金融AB 財政AB 国際経済AB		情報と経済A 国際経済C～F (グローバル経済論AB) (国際金融AB) 産業組織AB 応用経済学A～D (企業組織の経済学AB) (企業金融AB)		36 12
自由	経済学特殊講義AB (ゲーム理論入門AB)	経済政策AB 開発経済論AB 応用数理AB (経済の数理AB) 民法AB 商法AB 集中セミナーAB	外国語経済書講読AB 経済学史AB 制度の経済学AB 少子高齢社会の経済学AB 環境経済学AB 現代産業論AB (水産経済学AB) (交通・関連産業と経済AB) 産業心理学AB 交通経済AB 労働経済AB 経済法AB 経済学特殊講義C～H (文化と経済AB) (社会階層とエスニシティAB) 経済史特殊講義A～D (国際関係史) (社会史AB) (日本経済思想史AB) 経済政策特殊講義AB (経済政策の形成過程AB) 地域経済特殊講義A～D (ロシアの経済) (中央アジア・モンゴルの経済) (中近東の経済AB) 法学特殊講義AB (消費者法・環境法) (国際法AB) (行政法AB) 政治学特殊講義AB 国際関係論特殊講義AB	経済統計特論A～D (統計学AB) (経済・社会統計AB) 財政・公共経済特論A～D (地方財政AB) (NPOの経済学AB) 金融・ファイナンス特論A～D (証券投資論AB) (貨幣経済学AB) 経済地理特論AB (日本) (先進国) (都市地理) (高齢化) 生活経済特論AB (結婚と家族の経済学AB) (現代経済と生活AB) キャリア特別講座A～H (日本の企業社会AB) (事業戦略AB) ビジネス・コンピュータ講座A～D (文書・プレゼンスキルAB) (論理思考・データ処理スキルAB) 集中セミナーCD		74 1 2 4 B	
全学共通 科目内容については、大学案内冊子をご覧ください(自由科目)。						12+C	
各教育科目の自由科目合計(A+B+C)						58	

※所定の単位数を超えて修得した「選択科目」の単位は「自由科目」の単位に算入されます。
※社会経済学科の「必修科目」「選択科目」を「自由科目」として修得することが可能です。

※外国人留学生は、日本語科目等4単位も必修です。
※開講時、若干変動する場合があります。

Pick Up (科目紹介)

基礎演習

【両学科共通・基礎必修科目】
各クラスの受講者人数が20名前後の少人数クラスで、大学生としての「基礎力」を一年かけて修得していきます。ここでいう「基礎力」とは、特定のテーマについて、情報を収集し、理解し、論理を構築し、表現することを指します。この少人数クラス形式は、2,3年次の「専門演習Ⅰ,Ⅱ」や4年次の「卒業研究」へと引き継がれています。

入門数理

【現代経済学科・基礎必修科目】
経済の仕組みや動きは、起こっている現象を数値で表し、その変化をつかむと分かります。この科目は、経済の数量的分析に必要な数学の手ほどきをします。数字は苦手、という人も心配はいりません。数学を教えるプロの先生たちが、イチから丁寧に解説してくれます。携帯電話を使って関数計算にトライしてみるなど、親しみやすい内容も含まれています。

ミクロ経済学Ⅰ / マクロ経済学Ⅰ

【両学科共通・専門必修科目】
現代の経済学には、ミクロ経済学、マクロ経済学という二つの枠組みがあります。ミクロ経済学は、家計・企業といった個別の経済主体の行動を分析します。一方、マクロ経済学は国全体の所得・物価・雇用などの動きを分析していきます。ミクロⅠ、マクロⅠは、これら二つの分析枠組みの基本を解説する科目で、経済学部では必修となっています。

情報と経済AB

【現代経済学科・専門選択科目】
現代の社会はユビキタス(コンピュータが生活のあらゆる場面にある)社会へ進みつつあります。そして、その変化は現代経済に対しても大きな影響を与えています。この科目では、情報産業が経済に対してどのような変化を及ぼしてきたか、また今後どのような変化が起こりうるのか、コンピュータ産業や電気通信産業に焦点を当てつつ学んでいきます。

経済データ分析AB

【両学科共通・専門選択科目】
物事について正しく知るには、単にデータを得るだけでなく、そのデータを正しく処理することが必要です。たとえば、日本の全世帯の一部だけを対象にして得られた調査データから、日本全体の家計貯蓄額を推測する方法を考えなければなりません。この科目では、そのような統計的推測の手法を、パソコンの表計算ソフトを用いながら学んでいきます。

産業組織AB

【現代経済学科・専門選択科目】
企業は利潤を最大にするためにどのような行動を取るのか、市場の変化は企業の行動にどう影響するのか、企業が儲けたら世の中は良くなるのか、など企業と市場・社会との関係を理論的に考察していきます。映画館が女性割引をする理由、メーカーが希望小売価格を決める理由など、現実の企業行動の背後にある論理が分かるようになる科目です。

経済学特殊講義(ゲーム理論入門AB)

【両学科共通・専門自由科目】
利害の対立する複数の人や集団をゲームのプレイヤーと捉え、これらプレイヤーの行動を、ゲームの勝敗を争う状況に見立てて分析する理論を「ゲーム理論」といいます。この科目では、じゃんけん、サッカーのPKのような身近な題材から、企業間の価格競争など経済学の実用例まで、幅広い事例を紹介しつつ、ゲーム理論の基本を学びます。

現代産業論(水産経済学AB)

【両学科共通・専門自由科目】
私たちが日常食べている魚はその多くを天然資源に依存しています。海中にどれだけ魚がいるか分かりませんし、絶滅を防ぐためには獲り過ぎるわけにもいきません。生産量を思うようにコントロールできないことが、水産業の最大の特徴であり、他産業との違いなのです。魚という身近な題材から、食糧・資源問題など経済の諸側面が学べる科目です。

◆学部・学科の教育目標

- **大東経済学部**は、経済学の専門知識とともに幅広い教養を教授し、学生の主体性（＝自ら課題を見つけ、情報を収集・分析し、問題を解決していく力）を涵養することをめざします。
- **社会経済学科**は、経済学とともに歴史・思想・社会・政治など社会科学の隣接領域にも目を配り、社会問題を歴史的深みや国際的広がりの中かで総合的にとらえる力を養います。
- **現代経済学科**は、経済学とともに統計・会計・情報処理など数量分析手法にも目を配り、現代の経済をリアルにとらえる力を養います。

◆学部・学科のカリキュラム上の特徴

- **4年一貫の少人数演習プログラム**を整備（両学科共通）
1年次の「基礎演習」（必修科目）で大学生としての基礎力を習得、2,3年次の「専門演習 I,II」（選択科目）で各自の関心に合ったゼミを選択して学習を進め、4年次の「卒業研究」（選択科目）で2,3年次の学習成果を論文にまとめます。ゼミの指導教員・同級生との交流を通じ、協調性・コミュニケーション能力等も身につきます。
- 世界の諸地域の経済・社会の知識が深まるとともに、**外国語科目**も充実（社会経済学科）
「経済地理 AB」「中国経済・社会論 AB」「アメリカ経済・社会論 AB」などを選択科目として開講、また、1,2年次は英語の必修科目（週1コマ）に加え、英語・中国語の選択科目（週2コマ）も開講しています。さらに語学力を高めたい人は、3,4年次にも語学科目を多数選択できます。
- ビジネスの基礎をじっくり学べるとともに、**データ分析系科目**も充実（現代経済学科）
「産業組織 AB」「企業組織の経済学 AB」「企業金融 AB」「財務諸表分析 AB」などを選択科目として開講、また、「経済データ分析入門」（必修科目）、「経済データ分析 AB」「計量経済学 AB」（選択科目）などを通じてデータ分析手法を深く学ぶこともできます。
- 学生が各自の興味・ニーズに合わせ、**多種多様なテーマ**で学ぶ機会を提供（両学科共通）
専門自由科目として「ゲーム理論入門 AB」「水産経済学 AB」「交通経済 AB」「産業心理学 AB」「経済法 AB」など幅広い科目を設置。また、全学共通科目として、「自己・人間をみつめる（囲碁と将棋 AB）」なども開講しています。
- 実生活や就職活動で役立つ**実践的知識・技能**も習得可能（両学科共通）
さまざまな業種の企業人に毎回交代で講師を務めてもらう「日本の企業社会 AB」を開講、また PowerPoint など汎用ソフトを使いつつプレゼンスキルや論理思考能力の向上をはかる「ビジネス・コンピュータ講座 A～D」も複数種類開講しています。

◆カリキュラム改定（2017年4月）のポイント

- **履修柔軟化**
専門必修科目・演習科目・外国語科目などの一部の例外を除き、開講科目はすべて半期完結の AB 型とし、学生の履修の自由度を高めました。
- **演習科目の多様化**
従来の専門演習に加え、より一般的なテーマでの少人数教育を行う「一般演習」、補習中心の「チュートリアル A～D」などを新設し、学生指導の機会を拡充しました。
- **基本科目の学部共通化**
1,2年次の専門必修・選択科目を中心に、学科を超えて履修可能な科目（<例>「経済学の基礎 AB」「経済データ分析 AB」「ミクロ経済学Ⅱ」「マクロ経済学Ⅱ」など）を増やし、学部全体として経済学の基本を着実に学べる体制を整備しました。